

長浜城視察日記



令和6年12月3日 一人旅

垂井 13時19分発→着 13時47分米原 14時01分発→長浜着 14時10分→長浜城視察→

長浜 15時28分発→着 15時41分米原 16時00分発→垂井 16時25分着

1 秀吉の長浜築城

天正元年(1573)年浅井氏滅亡後、湖北(滋賀県の北部)を支配したのは、羽柴秀吉であった。姉川合戦と小谷城攻めで手柄をあげた秀吉は、その功績によって浅井氏の領国の大部分を与えられ小谷城に入った。そして翌年天正2年夏にすでに今浜(長浜市公園町付近)に築城を開始している。秀吉が湖岸に城を移した理由は、琵琶湖の舟運を重視した領国経営にあったと考えられる。秀吉の築城については、当時の絵図や古文書がほとんど伝来せず、不明な部分が多い。材木は竹生島などから運んできたことや、石垣用の石材は領内から集められ、石仏や御輪塔などの墓石まで利用されたと考えられている。長浜城は天正5年年(1577)頃に完成したと考えられ、秀吉は地名を「長浜」と改めて天正10年(1582)まで在城した。

2 長浜城のその後



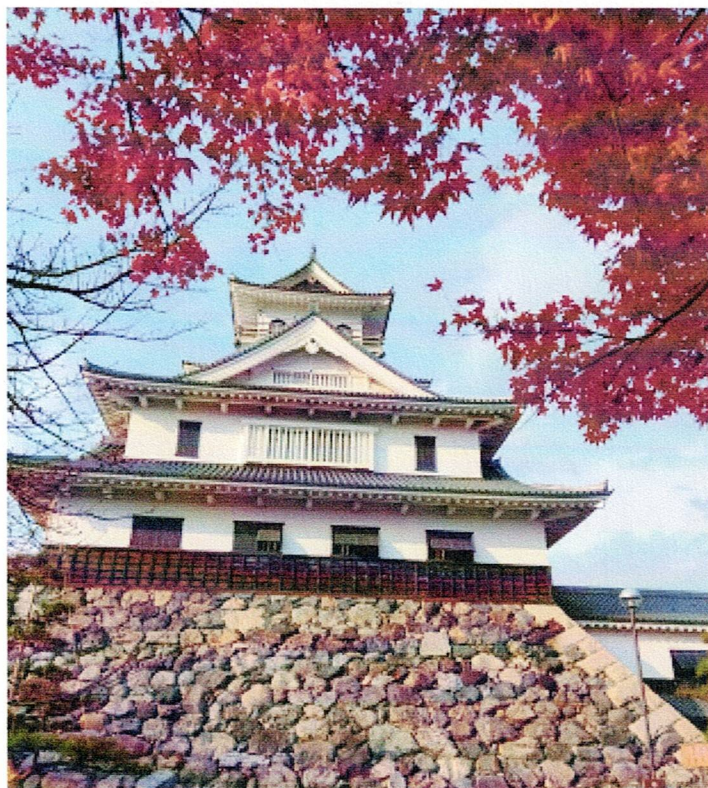
長浜城は、天正10年(1582)6月には清州会議で柴田勝家に譲られ、勝家の甥勝豊が入城したが、早くもその年に12月、秀吉は勝豊を攻めて、翌年4月に行われた柴田勝家との賤ヶ岳合戦に際しては、その軍事拠点としている。

天正13年(1585)から18年(1590)まで山内一豊が城主となり、その移封後は次第に廃墟し、湖北真宗門徒の惣会所が城内に設けられたともいう。この時期湖北は、佐和山城主石田三成の支配下に入っている。

慶長11年(1606)には、徳河家康の異母弟内藤信成が城主となり大改修を行う。慶長17年(1612)その子信正が城主となるが、元和元年(1615)摂津高槻城への移封によって、長浜城は湖北支配の役割を彦根城に譲りその使命を終えた。

廃城後、石垣・櫓材は彦根城などに運ばれ、長浜城は完全に失われた。長浜大通寺台所や知善院表門などはその遺構と伝えられる。

3 昭和の長浜城築城



現在の長浜城は、昭和 58 年（1983）に再興され、「市立長浜城歴史博物館」として開館。本館の外観は、2 層の大屋根に望楼をのせた初期天守の様式「秀吉の長浜城」を再興しようという市民の熱望によって天正期の城郭を想定し建築されている。平成 18 年（2006）2 月、「長浜市長浜城歴史博物館」に改称。

<パンフレットから引用>

4 御城印

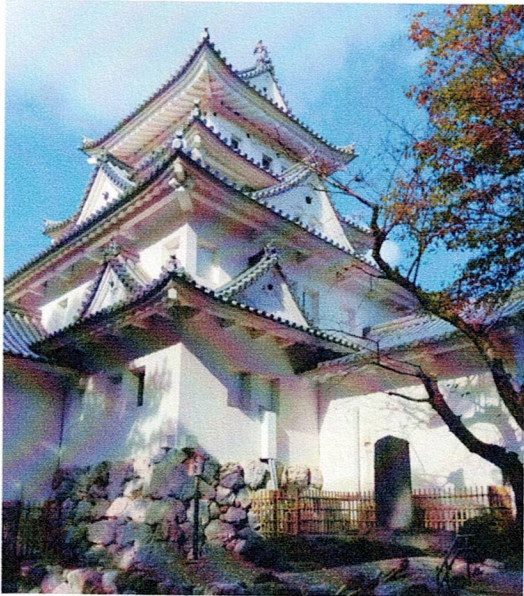
羽柴秀吉と山内一豊の 2 札



大垣城視察日記

令和6年12月4日 10時半自宅から自家用車で出発→大垣市役場の駐車場→大垣城→11時50分帰宅

概要



別名 麩城（びじょう）、巨鹿城（きよろくじょう）
城郭構造 連郭輪郭複合式平城
天守構造 望楼型（1594年築）
複合式層塔型3重4階（1620年改）（RC造外観復元・1959年再）
築城主 伝・宮川安定
築城年 伝・明応9年（1500年）
主な改修者 氏家直元、伊藤祐盛
主な城主 竹腰氏、氏家氏、伊藤氏、岡部氏、久松松平氏、戸田氏
廃城年 明治4年（1871年）
遺構 石垣、曲輪
指定文化財 大垣市指定史跡

復元天守閣 2015年

宮川安定（安貞）が築いたともいわれているが、築城年代、築城者は特定できていない。宮川氏築城当時は、牛屋川を外堀の代わりに利用し、本丸と二ノ丸のみであったという。戦国時代になると氏家直元が大規模な改修をして本格的な城郭としての整備された。伊藤祐盛が4重4階の天守閣を加え、石川氏によって総堀が加えられ、久松松平氏により天守が改修されている。慶安2年（1649年）、戸田氏鉄の代の改築によって明治に至る姿となった。

歴史

中世

明応9年（1500年）に竹腰尚綱によって揖斐川（牛屋川）東河岸にあった牛屋に築かれたとも、天文4年（1535年）に宮川安定が大尻に築いたともいわれる。この当時は、牛屋城と呼ばれていたとされている。牛屋川を外堀の代わりに利用し、本丸と二ノ丸のみであった。

戦国時代には大垣城は戦略上重要な地点であったため争奪戦が繰り返され、織田氏、斎藤氏、織田氏と支配権が移り変わった。天文13年（1544年）に織田信秀の攻撃により落城し、織田播磨守が5年間城主を務めた。その後、天文18年（1549年）、斎藤氏に攻め落とされて配下の竹越尚光が城主となる。

永禄2年（1559年）に桑原直元（氏家直元）が城主となり、永禄6年（1563年）に城の大規模な拡張を行い、堀や土塁に手を加え、総囲いなどが整備された。



近世

天正 11 年(1583 年)の賤ヶ岳の戦いの後、この地域の支配権を獲得した羽柴秀吉によって池田恒興が城主とされた。所領は 15 万石とされる。池田氏以後、大垣城は近世城郭としての整備が進んだ。翌、天正 12 年(1584 年)に小牧・長久手の戦いで恒興が戦死すると息子の輝政が継いだ。翌年の天正 13 年(1585 年)に輝政は岐阜城主に転じた。

同年中、輝政に代わって、天正 13 年(1585 年)には秀吉の甥・豊臣秀次(近江八幡山城)の家老の 1 人に任命された一柳直末が、大垣城に配されて 3 万石を領した。

大垣城は天正 13 年 11 月 29 日(1586 年 1 月 18 日)の天正地震の被害に遭って全壊焼失した。天正 16 年(1588 年)に一柳直末によって、もしくは慶長元年(1596 年)頃、伊藤祐盛が城主時代の改築で天守が築かれたとされる。

天正 18 年(1590 年)の小田原の役で一柳直末が戦死したため、この戦いで功を挙げた伊藤盛景が城主とされ、慶長 4 年(1599 年)に盛景が死ぬと子の伊藤盛宗が跡を継いだ。

慶長 5 年(1600 年)の関ヶ原の戦いの際には、城主・伊藤盛宗が西軍に属したため、石田三成ら西軍の主力部隊が入城して根拠地となった。その後、西軍本隊は関ヶ原に移動、城内には福原長堯(三成の義弟)らが守将となって残ったが、関ヶ原の本戦で西軍が敗北すると東軍に攻囲され、相良頼房、秋月種長・高橋元種兄弟らの裏切りにより窮した福原は、やむなく西尾光教の仲介で降伏勧告を受け入れて落城した(大垣城の戦い)。そのときの逸話が『おあむ物語』として残っている。

江戸時代に入り、徳川家康は譜代大名として石川康通を城主にした。

慶長 18 年(1613 年)には石川忠総によって総堀が加えられ、さらに後に松平忠良が天守を改修した。『関ヶ原合戦図屏風』(津軽本)や『正保城絵図』には、現在の復元天守とは異なる 3 重天守が描かれている。

寛永 12 年(1635 年)に戸田氏鉄が城主となって以降、明治に至るまで大垣藩戸田家の居城となった。戸田氏の改修後は、並郭式に本丸と二ノ丸を並べ、その周囲を三ノ丸で囲い、更に外周は惣構としていた。本丸には北西隅に 4 重 4 階(3 重 4 階とも)の複合式層塔型天守を上げ、3 重櫓 1 基に 2 重櫓を 3 基、二ノ丸に月見櫓など 3 重櫓を 4 基、三ノ丸には 2 重櫓 4 基、平櫓 1 基などが建て並べられ、本丸に 2 つ、二ノ丸に 1 つ、三ノ丸に大手門など大小 5 つ、外郭に南大手門など大小 7 つの門が開かれていた。また、東総門から西総門にかけて、総堀の中の郭を美濃路が抜けていた。写真の中の銅像は戸田氏鉄城主



近現代

明治6年(1873年)に発布された廃城令により廃城となったが、天守など一部の建物は破却を免れ、昭和11年(1936年)に天守等が国宝(旧国宝)に指定された。しかし昭和20年(1945年)7月29日の大垣空襲により天守や良櫓などが焼失した。

天守は昭和34年(1959年)に、乾櫓は

昭和42年(1967年)に鉄筋コンクリート構造で郡上八幡城を参考に外観復元されたが、観光用に窓を大きくするなどの改変がなされた。平成20年(2008年)8月、市民検討委員会が大垣市に木造再建案を提言している。(写真は連郭輪郭複合式平城)

平成17年(2005年)、大垣市は、戦後に総堀が水門川や用水路として残る以外の堀が埋められ、計画性の無い開発により主要道路や大垣駅からは天守より高い建物によって見えなくなってしまったとして、昔の大垣城を復活しようと「大垣城郭整備ドリーム構想」という計画を立ち上げた。2006年以來、検討委員会がたびたび開催されているが、計画は具体化していない。

<出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』>



御城印